

下水道有効利用部門

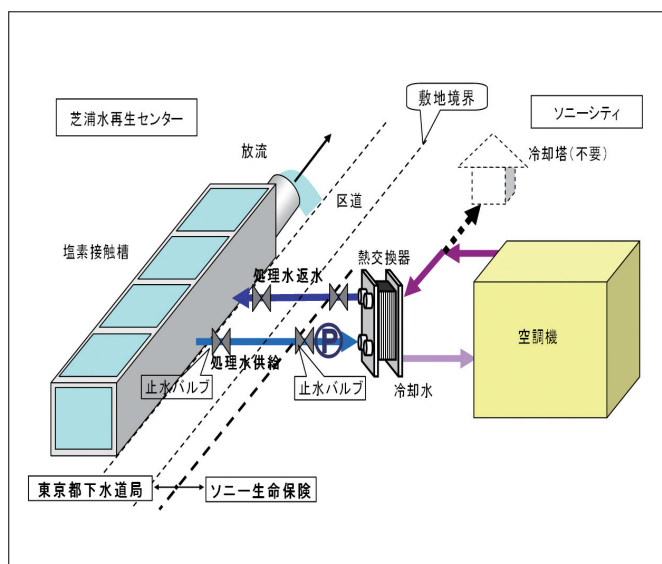
下水処理水を有効利用した熱供給

～ソニーグループとの共同事業によりCO2削減とヒートアイランド対策に貢献～

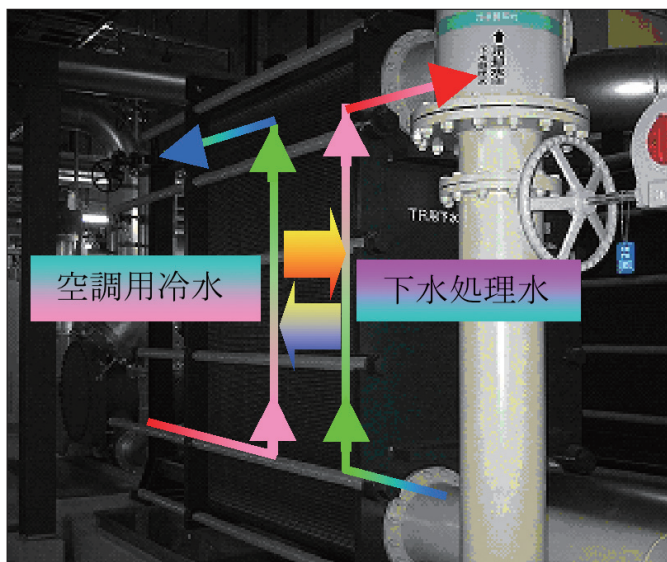
東京都



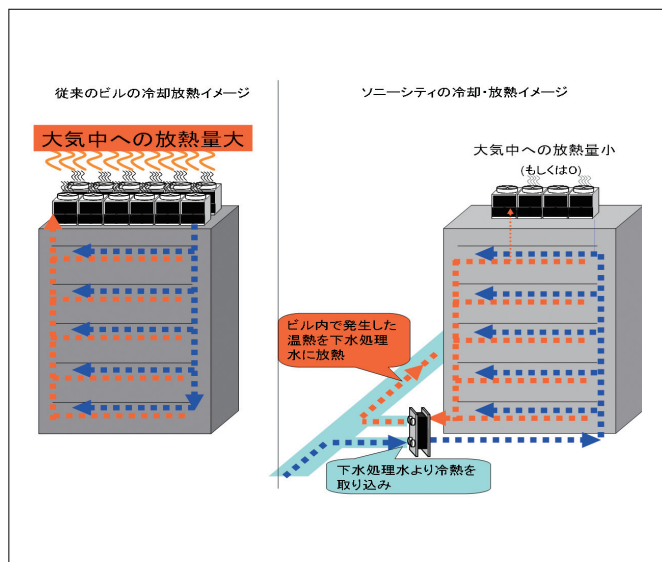
芝浦水再生センターと隣接するソニーシティ



芝浦水再生センターの塩素接触槽から処理水の一部をソニーシティ側へ取り込み、熱交換器を通じて空調廃熱を処理水に吸収させ、再び塩素接触槽に戻しています。



空調廃熱を下水処理水に吸収させている熱交換器



空調廃熱を全量大気中へ放散する従来方式に対し、ソニーシティでは下水処理水へ空調廃熱を吸収させることにより、ヒートアイランド対策に貢献しています。

東京都は、芝浦水再生センターの処理水を「ソニーシティ」(ソニー株式会社の新本社ビル)に送水し、処理水の有する熱をビルの空調廃熱の冷却用として有効利用しています。ソニーシティ側は、空調廃熱を処理水に吸収させるため、従来必要となる冷却塔が基本的には不要となります。これにより、冷却塔の稼働に必要な電力量や上水補給が削減でき、年間で約22t-CO2の温室効果ガス排出量の削減につながります。また、従来、大気中へ全量放散していた熱を処理水へ吸収することにより、ヒートアイランド対策にも貢献しています。民間事業者と連携を図り、処理水の有する熱を活用したこの事業は、省エネルギー対策への先進的な取り組みといえます。